

まもなく開催 次回展覧会

## アーキラボ： 建築・都市・アートの新たな実験展 1950-2005

森美術館（港区六本木：六本木ヒルズ森タワー / 館長デヴィッド・エリオット）では 2004 年 12 月 21 日より大型企画である「アーキラボ：建築・都市・アートの新たな実験展 1950-2005」を開催いたします。

「アート&ライフ」の融合をテーマに、現代美術やデザイン、ファッションなど様々なアートを紹介し、現在と未来への視点を発信する森美術館において、本展は「建築」をテーマとした最初の展覧会となります。

建築表現を私たちの生活により身近ものとしてとらえ、また新しい時代の新しい建築を考える契機となることを期待し、本展では、90 名に及ぶ建築家（作家）による、約 220 のプロジェクトを一挙に紹介します。貴重な「ユートピアと実験」をテーマにした建築の歴史的資料に加え、これからの動向を提示することで、私たちをとりまく環境・社会に密接に関わりのある「建築、都市、アート」の未来の姿を示唆します。

開館 1 周年記念

## 森美術館チャリティーオークション開催

森美術館では本年 10 月に開館 1 周年を迎えたことを記念いたしまして、サザビーズ ジャパンの協力によるチャリティーオークションを開催いたします。日本を代表する、著名なアーティストによる 20 数点のアート作品そして 5 台の MINI ONE にアーティストがデザインを施した「ART × MINI」などが出品されます。

収益金は全て子供地球基金、JAHDS（人道目的の地雷除去支援の会）、スペシャルオリンピックス日本、ASIAN CULTURAL COUNCIL に寄付され、それぞれの活動に役立てられます。

### 森美術館チャリティーオークション&開館1周年記念パーティー

開催日：2004年12月3日（金） 開場19:00 / チャリティーオークション開始 20:00 会場：森美術館52階ギャラリー9  
チャリティーオークション&1周年記念パーティー参加費：お一人様 一般 5,000円、MAMコンテナラリーメンバー 3,500円

プレビュー：12月1日（水） - 12月3日（金） 10:00 - 20:00（最終日は15時まで/いずれも入場は閉館の30分前まで）

\*プレビューへは森美術館入館者（別途入館料が必要です）は自由に入場可 プレビュー会場：森美術館 52階ギャラリー7,8

詳細はウェブサイトにてご覧いただけます。 <http://www.mori.art.museum/auction>

主催：森美術館

協力：株式会社サザビーズ ジャパン、BMW JAPAN CORP.、MINI ディビジョン、日本油脂BASFコーティングス株式会社、  
ブランジェット・ロックフェラー奨学金基金委員会、ヤフー株式会社、宝酒造株式会社

お問い合わせ

広報部 担当：鈴木、高橋、三浦

Tel: 03-6406-6111 Fax:03-6406-9351

E-mail: [pr@mori.art.museum](mailto:pr@mori.art.museum) Web: [www.mori.art.museum](http://www.mori.art.museum)

106-6150 東京都港区六本木 6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

PRESS RELEASE

プレスリリース

MORI ART MUSEUM

MORI ARTS CENTER

# アーキラボ： 建築・都市・アートの新たな実験展 1950-2005

会期：2004年12月21日（火）－2005年3月13日（日） 会場：森美術館 53階 会期中無休

## 1950年代から最新までの、建築の旅。 より豊かな都市と建築、そして人間の生活のあり方を探る。

「アーキラボ：建築・都市・アートの新たな実験展 1950-2005」は、フランス、オルレアン市のサントル地域現代芸術振興基金（以下FRAC CENTRE）のコレクションにボンピドゥー・センターの建築コレクションを合わせ、参加建築家の総数90名、約220件のプロジェクトを500余の出品物で紹介する、日本でも最大級の建築展です。「アーキラボ」は、フランスのオルレアン市で1991年から「ユートピアと実験」をテーマに毎年開催されてきた建築の国際会議です。そしてこの国際会議を通して収集された模型や素描の豊富なコレクションが、本展出品物の母体となっています。出品物は実践的な建築を紹介するだけでなく、建築のより理想主義的な側面に焦点を当て、1950年代から現在までの「ユートピア」をテーマにした主要な「実験」の軌跡をたどります。さらに最新の建築からは新たな挑戦の行方が果敢に示されています。本展では、復興する戦後社会が抱いた夢から、崩壊と革新を胚胎する脱構築の建築、技術革新による今日のダイナミックな造形、さらに未来のしなやかな建築の可能性を描いていきます。

また、かつて「ユートピア」はどこにもない理想郷を意味していましたが、現代のデジタル技術と建築素材の革命、そして社会的条件の変化により、そうした理想は実験的な建築の中に実現可能となってきていることもわかるでしょう。このように1950年代以降の現代建築史を鳥瞰し、各時代の建築家たちが模索していた最新の建築理論とその実践を本展で紹介することで、より豊かな都市と建築、そして人間の生活のあり方を探っていきます。

### 4部構成

#### I. 脈動する都市—実験室としての身体

1950年代から1960年代にかけて、建築を人間のように有機的なものとして捉え、かつ移動可能な存在と捉えることにより、実験的建築が生み出されました。それらはコープ・ヒンメルブラウやピーター・クックの建築アイデアに象徴されています。ここでは建築は気泡（バルーン）によって作られたシェルターや飛行船となり、移動可能な仮設性に特長づけられます。またあるものは人間や生物の形を模してします。こうした実験建築を通して現代建築の源流を検証します。

### PRESS RELEASE プレスリリース

#### II. 終わりなき都市—膨張する環境

1960年代、世界的スケールで展開した「メガ・ストラクチャー」（システムティックなインフラによって支えられ、空中にそびえる不定形の巨大な都市状の構造体）建築論を、ヨナ・フリードマン、丹下健三、磯崎新、メタボリスト（菊竹清訓、黒川紀章、横文彦など）の建築により検証し、また1960年代の代表的な建築家、クロード・バラン＆ポール・ヴィリリオによって提唱された「斜めの都市」論\*）を紹介します。

\*都市は元からある土地を持ち上げて作られたという意味で傾いた存在であり、人間の動きが空間の役割を決定し、それが傾斜した建築に表れるという理論

#### III. 解体される都市—新しいシンタクスの創造

1960年代のアヴァンギャルド達はグリッドを建築デザインのもチーフとして多用しました。ここでは、イタリアのスーパースタジオに代表される1960年代のラディカル・イタリアの実験から、レム・コールハースによる70年代初期のプロジェクト、そして80年代後半以降に盛んになったダニエル・リベスキンド、ピーター・アイゼンマン、ザハ・ハジドなどによるフランスの哲学者ジャック・デリダの「脱構築論」の思想に影響を受けた建築群を紹介します。

#### IV. 文脈化する都市—新技術と共生の時代

コンピューターの最新技術や建築素材の革新はヴァーチャルな建築デザインを現実制作可能にしました。アシンブトート、KOL / MACスタジオ、R & Sie... やNOXなどの若手の建築家が提案する最新の電脳技術とそれらが可能にした新しい造形・素材を用いたインタラクティブな建築、そして安藤忠雄、伊東豊雄、妹島和世＋西沢立衛 / SANAA、青木淳などの日本人建築家が挑む新たな実験世界を紹介します。

キュレーター：マリー＝アンジュ・ブレイエ（サントル地域現代芸術振興基金コレクション・ディレクター）、フレデリック・ミゲルー（ボンピドゥー・センター建築・デザイン部門チーフ・キュレーター）、南條史生（森美術館副館長） 会場構成：隈研吾

#### サントル地域現代芸術振興基金 (LE FONDS RÉGIONAL D' ART CONTEMPORAIN DU CENTRE)

現代芸術振興基金 (LE FONDS RÉGIONAL D' ART CONTEMPORAIN) は、フランス政府とフランス地方自治体による現代美術のコレクション機関でフランス全土に現在24カ所存在。サントル地域オルレアン市にあるサントル地域現代芸術振興基金 (FRAC CENTRE) は、1991年より「1950年代から現代までの建築におけるユートピアと実験」をテーマにしたユニークな建築資料の収集を行う。また、本展のタイトルの一部となっているアーキラボ (ARCHILAB) とは、同組織によってオルレアン市で1999年より毎年開催されてきた国際的な建築のシンポジウムの名称でもある。世界各国からの若手建築家の積極的な参加による情報交換や、討論が行われる場として、建築界で非常に重要な位置を占めている。

開館時間：月・水・木 10:00 - 22:00 | 金～日・祝前日 10:00 - 24:00  
火 10:00 - 17:00 (いずれも入館は閉館時間の30分前まで) 会期中無休  
\*但し12/21(火)は22時閉館 入館料 [円]：一般1,500、学生(高校・大学生)1,000、子供(4歳以上-中学生)500 \*展望台 東京シティブュー入館料含 \*表示料金に消費税込  
お問い合わせ：TEL03-5777-8600 (ハローダイヤル)

主催：森美術館、サントル地域現代芸術振興基金コレクション (FRAC CENTRE COLLECTION, ORLÉANS, FRANCE)、読売新聞東京本社 企画：森美術館、サントル地域現代芸術振興基金コレクション (FRAC CENTRE COLLECTION, ORLÉANS, FRANCE)

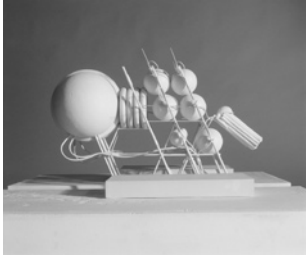
助成：東京日仏学院、「日本におけるフランス年」実行委員会 (ARAFJ)、フランス外務省フランス芸術文化活動協会 (AFAA)、フランス大使館 協賛：日本サムスン株式会社、株式会社大林組、鹿島建設株式会社、清水建設株式会社、大成建設株式会社、株式会社竹中工務店、株式会社ザウス、バルマスティエーリザ・ジャパン株式会社 協力：カラーキネティクス・ジャパン株式会社、日本航空、宝酒造株式会社、ヴァーローナ ジャパン株式会社

(カタログ)

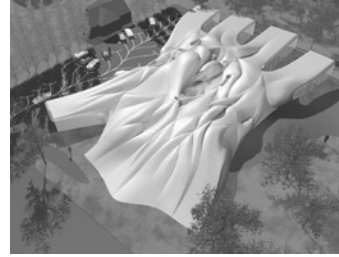
本展のカタログ日本語版、英語版を展覧会に際して発売いたします。

サイズ：240mm × 190mm / 頁数：368頁 (英カラー208頁)

税込価格：(日) 3,200円 平凡社より発売 (英) テムズ&ハドソンより発売予定



コープ・ヒンメルブラウ  
ウィラ・ローザ  
1967  
模型  
400 x 680 x 680 mm  
Collection FRAC Centre,  
Orléans, France  
Photo by Philippe Magnon



NOX  
(ラルス・スパイブルーク)  
ソフトオフィス  
2000  
CG  
©NOX (Lars Spuybroek)

最新のプレス画像は森美術館ウェブサイトより申請いただけます。上記のほか多数をご用意しております。

[WWW.MORI.ART.MUSEUM](http://WWW.MORI.ART.MUSEUM)

### アーティスト

阿部仁史  
ヴィト・アコンチ / ロバート・マングリアン  
アクタル・アルキテクトゥーラ  
安藤忠雄  
ポール・アンドルー  
青木 淳  
アルシテチュール・ブランシブ (クロード・バラ  
& ポール・ヴィリリオ)  
アーキズーム・アンチアーティ  
アシンブート (ハニ・ラシッド、リズ・アン・ク  
チュール)  
坂 茂  
アンドレ・ブロック  
ダニエル・ビュレン  
シャネアク  
C.J. リム+スタジオ 8 アーキテクト  
ピーター・クック (アーキグラム)  
コープ・ヒンメルブラウ  
フランソワ・ダルク  
ギー = エルネスト・ドゥポール  
dECOi (ディコイ)  
デコステール & ラーム  
ニール・ディナーリ  
ディラー+スコフィディオ  
ビエール・デュ = ベセ & ドミニク・リヨン  
DzO  
ピーター・アイゼンマン  
ダヴィッド = ジョルジュ・エメリック  
遠藤秀平  
EZCT  
ディディエ・フィウツァ・ファウスティノー  
ヨナ・フリードマン

ヴィットーリオ・ジョルジーニ  
ディヴィッド・グリーン (アーキグラム)  
ザハ・ハティド  
長谷川逸子  
パスカル・ホイザーマン  
ハウス・ルッカー Co.  
ハンス・ホライン  
アイルフリート・フート & ギュンター・ドメニヒ  
laN+  
磯崎 新  
伊東豊雄  
ジャコブ & マクファーレン  
ジョーンズ・パートナーズ・アーキテクチュア (ウェス・  
ジョーンズ)  
菊竹清訓  
KOL / MAC スタジオ (スラン・コラタン & ウィリア  
ム・マクドナルド)  
レム・コールハース  
トム・コヴァッチ  
隈 研吾  
黒川紀章  
ダニエル・リベスキンド  
アンティ・ロヴァーグ  
横 文彦  
ゴードン・マツタ = クラーク  
モーフォシス (トム・メイン、マイケル・ロトンディ)  
エリック・オーウェン・モス  
タエグ・ニシモト建築事務所  
コンスタント・ニーウウェンハイス  
NOX (ラルス・スパイブルーク)  
オブジェクティル (ベルナール・カシュ、パトリック・  
ポーセ)  
ONL [ オーステルハイス \_ レナール ]  
ONYX

クロード・バラ  
ペリフェリック  
ドミニク・ペロー  
ジャンニ・ベッテナ  
ワルター・ピッヒラー  
マルタン・パンシス  
リカルド・ポロ  
アーサー・クアームビー  
R & Sie... (フランソワ・ロシュ & ステファニー・ラ  
ヴォー)  
フランコ・ラッジ  
ダグマル・リヒター・スタジオ (DR\_D)  
ミシェル・サイ  
イオネル・シャイン  
エックハルト・シュルツェ = フィーリッツ  
妹島和世 + 西沢立衛 / SANAA  
Servo  
グラハム・スティーン  
アントワヌ・スティンコ (Utopie)  
スタジオ・ワークス / ジェームズ・タレル  
スーパースタジオ  
ビエール・ゼクリ  
丹下健三  
ベルナル・チュミ  
UFO (ラーボ・ピナッツィ)  
UNスタジオ (ベン・ファン = ベルケル & カロリー  
ヌ・ボス)  
渡辺 誠  
ジェームズ・ワインズ & サイト  
山下秀之  
葉 祥栄  
(姓のアルファベット順)

### キュレータープロフィール

**マリー=アンジュ・ブレイエ** / 1996年よりFRAC CENTRE ディレクター。1999年にフレデリック・ミゲルとアーキラボを設立し、現在はアーキラボ ディレク  
ターを務める。2001年と2002年にベアトリス・シモノとシンポジウムおよび展覧会を企画。また、ベアトリス・シモノと共に2002年ヴェネチア・ビエンナー  
レフランス館コミッショナーを務めた。

**フレデリック・ミゲル** / 哲学者・建築評論家。1991年よりFRAC CENTREの建築コレクションに携わる。1996年ヴェネチア・ビエンナーレフランス館コミッ  
ショナーを務めた。1999年にマリー=アンジュ・ブレイエとアーキラボを設立。現在はボンビドゥー・センター建築デザイン部門チーフ・キュレーター。2003年  
ボンビドゥー・センターにおいて「ノン・スタンダード」展を企画。

**南條 史生** / 2002年4月より森美術館副館長。主なプロジェクトとして、1997年ヴェネチア・ビエンナーレ日本館コミッショナー、1998年台北ビエンナーレコ  
ミッショナー、同年英国テイト・ギャラリーのターナープライズ審査委員、横浜トリエンナーレ2001アーティストック・ディレクターなどを歴任。様々なパブリ  
ックアート、コーポレートアート計画に長年携わる。

お問い合わせ

広報部 担当：鈴木、高橋、三浦

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351

E-mail: [pr@mori.art.museum](mailto:pr@mori.art.museum) Web: [www.mori.art.museum](http://www.mori.art.museum)

106-6150 東京都港区六本木 6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

**PRESS RELEASE**  
**プレスリリース**

MORI ART MUSEUM

MORI ARTS CENTER

## ストーリーテラズ：アートが紡ぐ物語

2005年3月29日〔火〕— 2005年6月19日〔日〕 森美術館 53階

現在、現代美術の世界において「物語」は重要な要素として新たに注目されており、多くのアーティストが物語の手法を作品表現に取り入れています。本展はこの流れに着目し、日本と世界各国のアーティストによる物語性を感じさせる映像、写真、絵画など多彩な作品を紹介いたします。

小説家や劇作家たちが「物語」という枠組みを使うことによって矛盾や困難に満ちた現実世界をより自由に、象徴的に描写してきたように、視覚芸術を扱うアーティストたちもまた、彼らが生み出す作品の中でさまざまな物語を語っています。そこには、人種、性差、孤独、夫婦、家族など、現代社会の抱える問題とアーティスト個人の体験が複雑にからみあいながら表現されています。作品を見る私たちもまた、自身の体験や意識に向きあうこととなります。

現実と非現実をさまよう、不可思議な雰囲気と視覚的な魅力にあふれる作品の数々は、それぞれがユニークな視点によって紡がれています。鑑賞者はその奥にあるメッセージを読み取りながら、作品をめぐることとなります。

出品アーティストは日本、ヨーロッパ、アメリカなど多岐にわたり、同時に世界の最新の傾向を本展でご覧いただくことができます。

数々の「ストーリー」の中で、アートを小説のように「読み」、映画や演劇のように「観る」楽しさを、本展では一つの鑑賞方法として提案したいと考えています。

## 秘すれば花

2005年3月29日〔火〕— 2005年6月19日〔日〕 森美術館 53階

先の20世紀に急激に進んだ西欧文化の流入と科学技術の発展によって、東アジアにおける生活方式と芸術は、それまでの自らの伝統と遠く離れてしまうという傾向が生じました。本展覧会は、そのような突然の変化にみまわれた現代のこの時点で、東アジアにおける現代美術と伝統芸術との関係に注目し、代々長い歳月を経て、自身の先祖の経験と知恵を通じて形成されてきた伝統が現代人に与える意味について探ってみようというものです。

今回の展覧会は、特に日本、韓国、中国、そして台湾のアーティストに限定した現代美術展として、儒・仏・禅を中心に発展してきた伝統的な思想と、漢字文化を共有してきた東アジアの伝統の継承と革新、そしてアイデンティティという見地から、新しい芸術の問題を模索しようとするものです。これは最近、頻繁に提起されているグローバリズムとローカリズムの問題とも関連するといえます。

展覧会のタイトル“秘すれば花”は、日本の伝統的な能から借りてきた用語ですが、伝統の形式と精神を再探求するという点を象徴しています。また本展は、外の風景と室内の風景とに分かれており、外の風景は「山水画」、室内の風景は「故郷の家」と想定し、展示を構成しています。さらに全体的な作品配置において、風水の方法を取り入れる予定です。本展はこのような考え方を出発点にすえ、東洋の自然観と伝統美学、そして東アジア各国の地域的、文化的特長などを連結させた対話をつくりだそうというものです。

絵画、彫刻、写真、インスタレーション、ビデオ、デザイン、工芸など多様なジャンルにわたる現代作家27名の制作を紹介する予定です。

お問い合わせ

広報部 担当：鈴木、三浦、高橋

Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351

E-mail: [pr@mori.art.museum](mailto:pr@mori.art.museum) Web: [www.mori.art.museum](http://www.mori.art.museum)

106-6150 東京都港区六本木 6-10-1 六本木ヒルズ森タワー 森美術館

**PRESS RELEASE**  
**プレスリリース**

**MORI ART MUSEUM**

MORI ARTS CENTER

# 今後の展覧会ハイライト

## [2005年]

### 1. 中国東西交流の国宝展（仮題）

会期：2005年7月2日 - 9月4日

漢代（紀元前202～220）から唐代（618～907）までの1千年以上にわたる中国の歴史を「時代の軸」と東西交流と南北交流という地域間の「交流の軸」という2つの軸で構成する、かつてない観点からの展覧会となります。中国の文物のみならず、漢滅亡以降中国に渡った外来の文物、初期中国仏教美術など、多数の世界初公開、国宝級文物が中国全土に渡る各博物館より出品されます。

### 2. 中国現代美術展（仮題）

会期：2005年7月2日 - 9月4日

「中国東西交流の国宝展」と同時期に開催される本展では、森美術館のギャラリー5、6（約560㎡）を使って、現在、国際的に最も注目を浴びている中国の現代アーティスト約10名を紹介します。1990年代以降のグローバル化・国際化の潮流にあって、急速に変化する都市風景や人々のライフスタイルなどが、現実とイリュージョンの狭間を往来するようなイメージを通して力強く伝わってくることでしょう。

### 3. 杉本博司回顧展（仮題）

会期：2005年9月17日 - 2006年1月9日

杉本博司（1948年生まれ）は、日本を代表する国際的なアーティストのひとりです。ニューヨークと東京を拠点に活動。本展「杉本博司回顧展（仮題）」は、杉本の作品を網羅的に紹介する最初の回顧展であり、国内の美術館で杉本芸術の全貌を見られる初めての個展となります。長時間露光で撮影した「劇場」や「海景」などの写真シリーズだけでなく、建築や能舞台など近年の幅広い関心も反映されます。2006年2月、ハーシュホン美術館8 彫刻庭園（ワシントンDC）へ巡回後、全米巡回予定。

## [2006年～]

### ・ベルリン - 東京展（仮題）

会期：2006年1月28日 - 5月7日

ベルリンを中心としたドイツと日本の関係に焦点をあてながら、両国の20世紀前半から現在までの文化・芸術の影響関係を探ります。日本におけるドイツ年の参加企画として、絵画、彫刻、写真、建築、商業芸術などを総合的に紹介するほか、日本・ドイツの現代美術作家を相互に紹介。本展は森美術館で開催後、ベルリン・新ナショナルギャラリーに巡回します。

### ・AFRICA REMIX：現代アフリカ美術とその未来（仮題）

過去10年間のアフリカ美術を、アート、映画、文学、音楽、建築、デザインを網羅します。アフリカ国内のみならず海外で活躍しているアフリカ人アーティストを紹介。本展覧会はデュッセルドルフ美術館、ヘイワード・ギャラリー、パリ国立近代美術館を巡回した後、東京で開催されます。ゲスト・キュレーターにサイモン・ジャミを迎えます。

### ・ビル・ヴィオラ回顧展（仮題）

現代を代表するビデオ・アーティスト、ビル・ヴィオラ初の回顧展。初期作品から近年の主要作品までの紹介を通して、ヴィオラ独自の作品世界がどのように確立されたかを明らかにしていきます。1980年代前半に18ヵ月間、日本に滞在したヴィオラの作品の中には、アジアの神秘との関わりも感じとることができるはず。本展は森美術館で開催後、アジアに巡回予定。

### ・ホット & スパイシー：アジアのクリエイターの今を描く

アジアのアート & カルチャーをリアルタイムに紹介。さまざまな地域から次々と湧き出る最もダイナミックでエネルギッシュな芸術・文化をアート、デザイン、ファッション、音楽、映画、ニューメディア、若者文化を網羅します。本展覧会では日本、韓国、中国、イスラエル、トルコ、そして他のアジア諸国の作品を紹介します。

### ・路上の詩：フランス近代写真の軌跡

写真史の上でも魅力的な時代である1920年代半ば～1960年代後半の作品を中心に、当時からメディアに影響を与えてきた人道主義のフランス人写真家たちの作品を検証します。この重要な時代を文化的、歴史的背景を考慮しつつ、300点以上の傑出した作品で構成します。ゲスト・キュレーターにピーター・ハミルトンを迎えます。

PRESS RELEASE

プレスリリース

MORIART MUSEUM

MORI ARTS CENTER